



もう一步、貧困のない世界へ

動く→動かす

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 2 階
特定非営利活動法人アフリカ日本協議会 気付

TEL 03-3834-6902 FAX 03-3834-6903

E-MAIL office@ugokuugokasu.jp URL <http://www.ugokuugokasu.jp/>

国際協力 NGO の皆さま、開発援助に関わる皆さまへ

2011 年度予算「元気な日本復活特別枠」 外務省提出「MDGs 達成・人間の安全保障の推進」に関する パブリック・コメントを送りましょう

世界の貧困を減らすために、日本はもっと貢献できないか——それを実現するための方法がひとつあります。

日本の来年度(2011 年度)の予算編成に向けて、政府は各省庁の予算を 10%削減、浮いた資金 1 兆円強で「元気な日本復活特別枠」を設定し、各省庁から出された政策のコンテストを行って資金を配分することになりました。

8月31日に外務省から提出された2011年度のODA予算等のうち、「ミレニアム開発目標」(MDGs)達成にあてられた予算要求額は 741 億 9500 万円。これは、2010 年度の 797 億 1400 万円に比べて、50 億円もの減額となっています。

一方、外務省はこれに加えて、MDGs 達成のための予算要望として、「ミレニアム開発目標の達成/人間の安全保障の推進(アフリカ支援・保健・教育)」という要望事項を「元気な日本復活特別枠」に要望しています。金額は 251 億 3700 万円。もし、これが通れば、MDGs 達成のための ODA は合計で 993 億 3200 万円となり、昨年よりも 196 億円程度、増えることとなります。これにより、世界から貧困をなくそうという MDGs の目標に、日本もより大きく貢献できることとなります。

「MDGs 達成のために、もっと貢献しよう」という私たちの声を、政府に届けるにはどうすればよいでしょうか。現在、首相官邸は、国民からの意見を聞くために、「パブリック・コメント」を集めています。この「パブリック・コメント」を使って「MDGs 達成に向けた貢献を増やそう」という私たちの声を届けることは、MDGs 向けの日本の貢献を実際に増やしていく上で、大変有効です。

政府が国民の意見を募集するせっかくの機会です。これを活かして、「MDGs を達成しよう」というあなたの声を、政府に届けてみませんか。

パブリック・コメントを書く前に

(1) まず、資料を見てください。

- ◎ 外務省が「特別枠」に申請した事業「ミレニアム開発目標(MDGs)の達成・人間の安全保障の推進」の概要が、以下のウェブサイトに出ています。

<http://seisakucontest.kantei.go.jp/project/detail.php?t=1702>

- ◎ この「概要」をより詳しく説明している資料が、外務省のウェブサイトに出ています。(PDF ファイル、パワーポイントの説明 449KB)

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/yosan/23/pdfs/h23_youbou02.pdf

(2) 資料を読んだら、パブリック・コメントのウェブサイトに行ってみましょう。

◎ 「元気な日本復活特別枠」パブリック・コメント

<http://seisakucontest.kantei.go.jp/>

(3) **締め切りは 10 月 19 日(火)午後5時必着**となっています。

(4) パブリック・コメントを寄せるには、以下の方法があります。

a) ウェブサイト

<http://seisakucontest.kantei.go.jp/project/detail.php?t=1702>

b) FAX・郵送で送る場合、用紙が指定されています。(以下ダウンロード)

http://seisakucontest.kantei.go.jp/pdf/fax_form.pdf

※FAX・郵送先は以下のとおりです。

FAX: 03-3592-2301

郵送: 〒100-8968 東京都千代田区永田町 1-6-1

内閣官房副長官補室(政策コンテスト担当)

パブリック・コメントを書くには

(1) パブリック・コメントを書くには、まず、ユーザー登録をする必要があります。以下の画面に行って、所定の事項を記入し、登録しましょう。(フリーメールアドレスはダメなどの制限があります)

◎ ユーザー登録画面

<https://seisakucontest.kantei.go.jp/login/user.php>

(2) 登録が終わると、各項目への意見が書けるようになります。「ミレニアム開発目標の達成・人間の安全保障の推進」の項目に行ってみましょう。

<http://seisakucontest.kantei.go.jp/project/detail.php?t=1702>

(3) まずは選択項目をこなして、その後、この事業に関する(1)良い点、(2)悪い点、(3)その他ご意見を書くコーナーがあります。このコーナーに、世界の貧困問題や MDGs の達成に関する皆さんの思いを、ぜひ書いてみてください。

パブリック・コメントに何を書けばいいの？

NGO として、この「パブリック・コメント」に書く場合は、それぞれの団体の活動で出会った途上国の「貧困」の現実などと照らし合わせて、現場の活動を踏まえて、「なぜ貧困をなくすことが必要なのか」を記述されるとよいでしょう。その上で、以下のことを踏まえて書いていただければ幸いです。

- a) この「特別枠」は、「元気な日本復活」が中心的な目的です。ですので、単に「世界の貧困をなくすことは重要」というだけでなく、それがどのように「元気な日本」を復活させることにつながるのかについて、説明できると良いでしょう。
- b) また、この事業が、日本のこれまでの政策や、現政権の政策方針にかなっている、ということを説明するののもひとつの方法です。例えば、日本が 90 年代から「人間の安全保障」を国是の一つとしてきたこと、平和国家として「地球規模課題」に積極的に取り組んできたこと、MDGs の達成が菅総理の「最小不幸社会」という考え方とつながるものであること、などを引き合いに出すのもよいでしょう。

どんなことを書こうか、と迷っている方は、本テキスト末尾にある「参考：パブリック・コメント論点集」を見てみてください。

パブリック・コメントを書く上での注意事項

- (1) パブリック・コメントは、一つの事業案件につき、ユーザー一人一回しか送ることが出来ません。一旦送ってしまうと、同じアカウントから同じ事業案件について再度送ることは出来ません。ですので、特に記述回答については、しっかり考え、準備をしてから送信してみてください。
 - 記述回答の項目は「(1) 良い点」「(2) 悪い点」「(3) その他ご意見」の3つです。ぜひ、下書きをして、読み手の印象に残るようなコメントを書いてみてください。その上で、送信すると良いでしょう。
- (2) また、パブリック・コメントは、確認の上、送信してしまうと、記録が手元に残りません。また、意見提出フォームのページを長時間開いたままにしていると、記入し終わった後に「送信内容確認」をクリックした時点で、ログインページに戻ってしまい、それまでの記述内容が失われてしまいます。したがって、ワードやテキストなどの形で、記述回答のコピーを作っておく必要があります。この点、注意してください。
- (3) パブリック・コメントにどんな意見を書くのが良いか、そのヒントとして、以下のことがあります。
 - 「MDGs の達成」「世界の貧困をなくす」ということについて、思いがなるべく読み手に伝わるように書くことが一番重要です。

この「元気な日本復活特別枠」、必ずしも、多くの人に知られていません。ご自分で記入されたら、今度は、この問題に関心を持っていそうなお知り合いにも伝えてあげてください。広がりを持った形で「伝わる」ことが非常に大事です。どうぞよろしくお願いいたします！！

(参考)パブリック・コメント論点集

パブリック・コメントの記述回答項目に何を書けばよいのか、迷っている方のために、いくつかの文例を作成しました。記述回答項目は「良い点」「悪い点」「その他の意見」という三つがありますが、この「論点集」では「評価できる点」「要改善点・課題」「その他の論点」の三つに分けて論点を挙げさせていただきました。適宜検討しながら、ご自分の論点を組み立てていただければ幸いです。なお、以下の点は、パブリック・コメントを書く皆様に参考にしていただきたいということで掲載しているものであり、いずれの論点も、「動く→動かす」の公式見解ではありません。

【評価できる点】

評価できる点として挙げられる論点を6つ示しました。適宜組み合わせ、書き換えるなどして使ってみてください。

★論点1(途上国の人々がおかれた過酷な状況について述べる)

サハラ以南アフリカ諸国を始め、多くの途上国では、数多くの人々が極度の貧困や飢餓に直面し、また、基礎的な保健医療や教育を受けられないでいます。日本は90年代後半以降、「人間の安全保障」の確立を援助政策の柱の一つとしてきましたが、こうした国々では、未だに「人間の安全保障」が確立されておらず、人々は、重要な人権の一つである、社会的・経済的な権利が剥奪された状態にあります。これは、人道的に見過ごすことができるものではありません。

★論点2(保健・教育分野の重要性を強調する)

今回、「元気な日本復活特別枠」に提案された「ミレニアム開発目標の達成・人間の安全保障の推進」は、保健・教育分野を中心にしています。この分野は、国際社会全体の開発努力の根幹をなす MDGs の中でも、特に中心的に位置付けられています。教育・保健は、人権や尊厳の回復の礎となるだけでなく、その国や地域の公平かつ持続的な成長を遂げる上での基礎となります。

★論点3(この提案に含まれている「良い援助」の例を上げる:以下は一例)

「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」は、2000年九州・沖縄サミットをきっかけに、日本のリーダーシップで2002年に設立されて以降、合計580万人の命を救ってきました。この基金は、各国の政治的意思の動員、資金調達、効果につながる資金供与、資金運用に関する当事者の発言権確保など、多くの点で、援助の歴史の中でも最も成功した援助モデルとして、国際的に高い評価を得ています。日本は世界基金の「生みの親」として、資金拠出においても他国を先導すべきです。

★論点4(MDGs 達成によって将来期待される経済効果について述べる)

ミレニアム開発目標の実現は、「元気な日本」の前提となる、「元気な世界」を作るための投資でもあります。現在、日本経済は、中国・インドなど新興国経済の成長に多くを依存しています。アフリカは「次の成長市場」として期待されている地域です。しかし、多くの人々が基本的な教育や保健が受けられない状況では、そのような発展もおぼつかず、不平等が拡大し、政情不安の要因ともなります。アフリカの MDGs と貧困解消に必要な規模と形態の援助を行うことは、将来の日本経済への投資といえます。

★論点5(ODA 増額のメリットと減額のデメリットについて述べる)

現在、ODA はすでに我が国の予算の1%に満たない金額に減らされています。これ以上減らしても、財政再建や行政改革にもたらす意味はありません。MDGs 達成のための ODA を増額すれば、多くの人命を救い、日本の外交や将来の経済戦略に多大な便益をもたらすでしょう。一方、MDGs 達成のための ODA をこれ以上減額すれば、日本の国際的な地位も下がり、途上国の人々にとっても大きな打撃となります。

★論点6(日本の国際的地位との関係について述べる)

21世紀の外交においては、貧困や環境破壊などの地球規模の課題に、どれだけ、どのように貢献するかが、先進国の外交的地位を大きく左右します。日本はこれまでも、平和国家としてこうした課題解決に積極的に取り組んできました。菅直人総理は、先の国連MDGsサミットでの演説において、MDGsの理念が自らの公約である「最小不幸社会」の実現とも共通するものであることを示しました。世界的な経済危機の中でも、日本が開発支援を強化することは、日本の国際的リーダーシップの発揮と外交的地位の確立に大きく貢献します。「MDGsの達成、人間の安全保障の推進」のために世界で活躍する、「元気な日本」をぜひ復活させましょう。

【要改善点・課題】

要改善点については、この「アクション・キット」を作成する過程で、本要望が通った場合に、実施の段階で考慮すべきと思われるいくつかの論点を挙げてみました。外務省発行の資料(上記参照)をよく見ていただいた上で、参考にしていただければ幸いです。

★論点1(日本人を雇用するという前提について)

本提案による援助の実施について、提案書では、日本人専門家600人・ボランティア50人が関与することになっています。しかし、援助は相手国の開発に最大の効果をもたらすことが目的であり、日本人の雇用を前提とするのは適切ではないのではないのでしょうか。とくに、途上国にも優秀なNGOや専門家が存在しています。むしろ、援助対象国の専門家やNGOなどと連携して、援助の効率性・効果性を高めることに優先順位をおくべきではないのでしょうか。

★論点2(我が国企業や日本経済の裨益について)

アフリカの資源・10億人市場が我が国企業に大きなビジネスチャンスをもたらすとの記述がありますが、本末転倒ではないのでしょうか。人間の安全保障の確立や貧困の解消は、それ自体が目的であって、それによって日本経済や日本企業が裨益するとしても、それは副次的なものです。世界の貧困の解消や人間の安全保障に汗をかくことそれ自体が、国際社会に名誉ある地位を占める「元気な日本」の回復につながると思います。

★論点3(円借款供与の拡大について)

5年間でアフリカ向け円借款を倍増するとあります。アフリカ諸国は、70年代以降、非現実的な開発計画や、冷戦下での政治的な思惑によって多額の借款を供与され、80年代以降、殆どの国が重債務貧困国となりました。現在、「アフリカの経済成長促進」の名のもとに再び有償援助を拡大した場合、同じ歴史を繰り返すことにはならないのでしょうか。また、有償援助による大型公共工事が地域住民の人権や環境を破壊した歴史は、十分に反省されていません。人々の福祉の増進につながらない大型公共工事などは、ODAによって行うべきではありません。

★論点4(広域運輸インフラの整備について)

広域運輸インフラの整備対象国に、エチオピア、スーダン、ルワンダなど自国内および近隣地域に紛争を抱えた国家の名前が上がっています。これらの国々は、周辺諸民族への抑圧、近隣国家に対する冒険主義的政策や地下資源の収奪などを行ってきた経緯があります。こうした国々をつないで広域インフラを整備した場合、これらのインフラが軍事的な目的で使用されるなどの危険性があるのではないのでしょうか。国境を越えた回廊建設などの大規模な援助は、その国が抱えている紛争や人権状況などに照らして慎重に判断されるべきです。

★論点5(効果の見えやすい支援の重視について)

保健分野に関して、「効果の見えやすい支援の重視」とあります。我が国のみならず、多くの援助国・援助機関が「効果の見えやすい支援」を重視しています。その結果、特定の国や地域・課題・機関に多額の援助が集まると、本来あるべきバランスが崩壊するだけでなく、腐敗にもつながりかねません。一方、「効果の見えにくい課題」に息長く取り組む援助国・援助機関がいなくなり、本来取り組まれるべき課題が放置される危険性もあります。支援の実施の是非は「効果が見えやすい・見えにくい」ではなく、必要性に応じて判断されるべきです。

【その他の論点】

★論点1(ODA改革の意義について強調する)

21世紀に入り、世界の開発政策の潮流は「貧困の解消」と「ミレニアム開発目標の達成」に大きく舵を切りました。しかし、日本のODAはこの変化に十分適応できないまま過去10年間で大きく減少し、その国力に比してMDGs達成に十分な貢献が出来ていません。

先般、岡田前大臣の下で外務省が取りまとめた「ODAのあり方に関する検討」の方針と、これを受けて菅総理が国連MDGsサミットで発表した新保健政策・新教育政策は、国際潮流も踏まえた改革の要素を含んだものであり、NGOからも高く評価されています。しかし、ここに含まれている「援助のプログラム化」など日本のODAの改革は、重点的な予算配分をして初めて、成果をあげることが出来るものです。この新政策に予算を充てるかどうかは、国民の支持に支えられた日本のODA再生の試金石となります。

★論点2(各団体の活動経験等をふまえての意見を記述する)

各団体で現場での活動経験などを踏まえて、団体独自の意見などを出していただけると良いと思います。

★論点3(しめくり)

各団体で、この「MDGsの達成・人間の安全保障の推進」提案に関して、どのような意見をもつのか(採択に賛成、反対、保留、等)について、明確に述べて「しめくり」とすると良いと思います。

本文書のお問い合わせ先・「動く→動かす」について

【本文書のお問い合わせ先】

動く→動かす(担当:稲場)

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 2階

特定非営利活動法人アフリカ日本協議会 気付

TEL:03-3834-6902 FAX:03-3834-6903

Email: office@ugokuugokasu.jp

【「動く→動かす」とは】

「動く→動かす」とは、「ミレニアム開発目標」の達成、世界の貧困の解消を目的に政策提言・キャンペーンを行う国際協力NGOなどのネットワークです。2009年3月に発足し、現在、国際協力NGO58団体が参加しています。

以上